

# 宮崎市立学園木花台小学校の学力向上への取組

## 1 学校の概要

- (1) 本校は、宮崎市街地の南に位置し、宮崎大学をはじめとした学園都市の中にある創立 13 年目、児童数は 537 名、19 クラスの学校である。
- (2) 英語教育・日本語教室指導など国際理解教育については、開学時より推進している。
- (3) 積極的な情報発信・学校評価を実施し、学校・家庭・地域との連携は大きい。

## 2 児童生徒の実態

- (1) 全体として学習に臨む基本的な態度は良好である。基礎学力調査等の結果では、学力は全体的に高いが、下位層の児童も見られる。
- (2) 学年の発達段階に応じて、「自ら学び、自ら考え判断し、実践する。」という問題解決的な学習が身に付きつつあるが、まだ不十分である。思考力・創造力・表現力などの向上とともに基礎的・基本的な内容の定着を図る指導が必要である。

## 3 学力向上に向けた経営方針

### (1) 創意ある教育課程の創造と実践

- 二学期制に対応した教育課程の整備・充実
- 「総合的な学習の時間」の実践の充実
- 英語活動の一層の充実
- 指導に生かす評価の充実と改善
- 外部評価を導入した経営評価の実践と説明

### (2) 学習指導法の工夫・改善

- 児童の側に立った問題解決的な学習の推進
- 体験的な学習活動の重視
- 基礎的・基本的な内容の精選と確かな定着を図る指導法の工夫改善
- 基本的な学習態度・習慣の確立
- 読書習慣の育成など読書教育の充実
- 少人数指導教員の活用等による個人差に応じるきめ細かな指導の充実
- 地域人材の活用促進

## 4 教育課程内の取組

### (1) 実態に即した授業時数の設定

国・算を主に理科・音楽・体育など、学年の指導内容によって標準時数に予備時数を組み入れて授業時数を設定し、基礎学力向上に努めている。

- (2) 宮崎市教育重点施策（情報教育・国際理解教育・ボランティア教育・読書指導）への対応  
宮崎市教育重点施策について、全学年で計画的に実施している。

学 年	情 報 教 育	国 際 理 解 教 育	ボ ラ ン テ ィ ア 教 育
1・2 年生	10 時間	10 時間	10 時間
3 年生以上	20 時間	35 時間	20 時間

【宮崎市教育重点施策の学年別予定時数】

### (3) 問題解決的な学習の展開

「自ら学び、自ら考え判断し、実践する」という問題解決的な学習を展開し、思考力・創造力・表現力等の向上を図る。

つかむ	めあての設定と問題解決の計画や見通しをもつ。
やってみる 学び合う	学習計画に沿って、1単位時間毎のめあてを解決しながら、問題解決的な学習を通して思考力や表現力の育成と内容理解を図る。
深める	よりよく問題を解決するための方法を身に付け、それを使って多様な問題に取り組み、確実な定着と発展を図る。 単元全体を通して、できる喜びや活動の楽しさを振り返り、学習の成果を確かめ合う。

**【単元の基本的な指導過程】**

**(4) 主題研究（算数科）の充実**

① 学習指導の工夫

児童の実態を正確に把握し、指導の焦点化を図りながら、個を生かす指導の工夫を行い、算数的思考力・表現力を身に付けさせる。

② 授業を支える環境整備

表現力に関わる国語科単元の洗い出し・計算力定着のためのマス計算や算数読み声の実施を行う。

③ 研究授業の充実

検証授業については、次のような流れで行った。

ア	授業研究班で検証の視点を話し合い、方向性を決める。
イ	全体会で視点や方向性について協議する。
エ	研究授業を行う。
ウ	学年部で事前研究を行う。
オ	学年部で事後研究を行う。

**(5) 習熟度別指導の充実（算数科）**

① 習熟度別指導のとらえ方

少人数指導の1つとして、3年生以上の算数科では児童のレディネスを把握し、その実態に応じて少人数集団に分けて個に応じたきめ細かな指導が行えるようにしている。

② 少人数担当との共通理解・共通実践の工夫

少人数指導ガイダンスを作成した。また、週に1回は学担と少人数指導担当との打ち合わせの時間を設定し、共通理解・共通実践できるようにした。

**(6) 学力向上支援事業の推進**

① 目的

支援を必要とする児童を対象に学習支援を行ったり、指導の補助として学習支援員を活用したりして、基礎学力の向上を図る。

② 支援内容及び方法

基本的に授業中の支援とし、支援教科は国語・算数・体育・音楽等とする。支援にあたっては、学担・保護者との連携を図り、児童の現状を把握しながら行う。



**【宮大生による学力向上支援】**

**(7) 教員養成G Pプロジェクトの推進**

① 目的

宮崎大学教員養成G Pプロジェクトに協力し、授業改善や児童の個別指導に役立てる。

② 実施内容

大学との共同授業研究や教職実務体験を行う。

(8) 朝自習の充実

読み・書き・計算を中心とし、基礎・基本の定着を図る。

	月	水	木	金
実施内容	漢字	計算	マス計算(教師付き)	読書(隔週読み聞かせ)

5 教育課程外の取組

(1) ボランティアによる読み聞かせ

① 目的

児童に読書の楽しさを体験させ、読書意欲を高める。

② 方法

読み聞かせボランティアが、金曜日の朝自習や木曜日の昼休みに読み聞かせを行う。



【地域の方による読み聞かせ】

(2) サマースクールの実施

① 目的

希望する児童を対象に国語・算数を中心とした学習支援及び夏季休業中の課題解決の支援を行い、基礎学力の向上を図る。

② 方法

夏季休業中の7日間、宮崎大学学生を支援員とし、午前中3時間行う。利用者は昨年より大幅に増えた。意欲的に取り組む児童が増えたものと見られる。

(3) 図書室・パソコン室の開放

① 目的

調べ学習や読書活動推進のために開放する。

② 方法

調べ学習の課題解決や読書活動推進のために、児童・保護者を対象に、夏季休業中、図書室を9日間・パソコン室を6日間開放した。

(4) 実態を踏まえた到達目標の設定

① 目的

児童に確実に身に付けさせたい基礎・基本を、より具体的に、明確にするために設定する。

② 方法

CRTテストやNRTテスト・校内のテスト・学年の実態等を考えて、到達目標を数値目標として設定した。家庭にも配布し、学校の取組について理解を得るようにした。

課題	課題解決のための対策	到達目標	評価	達成状況
読む能力	・文章に慣れ親しみ、読解力を高めるために、読書や読み声に力を入れていく。	・学習に関係する本や興味のある本を読むことができる。(年間最低30冊) ・読み声を授業や家庭で毎日できる。(1日10分)		

【到達目標(第6学年)】

## 6 保護者・家庭、地域との連携

### (1) 家庭教育の充実

#### ① 家庭学習の手引き活用

学年に応じた「学木台家庭学習の手引き」を使い、学級活動や懇談会での話し合い・手引き配布等で、家庭学習の充実を図る。

#### ② 生活習慣の確立

生活リズムアンケートを実施し、3年前の結果と比較分析した。学校保健委員会や学級懇談会での話題とし、生活習慣を正す必要性について意識を高める機会とした。

### (2) 三者面談の充実

一人一人の学習の成果や課題を明らかにし、児童のもつよさをさらに伸ばすための情報交換とその対応策を考える機会として30分設定している。

### (3) 家庭・地域に開く参観日の充実

#### ① フリー参観日の設定

保護者や地域の方々に学校の様子を参観してもらい学校教育について理解を得るとともに、家庭・地域との協力体制のもとで教育力の向上に努めている。

#### ② 学級懇談会の充実による家庭の教育力向上

学級の現状と課題についての共有化を図ったり、子育てに関する魅力ある情報交換の場としたりするために、年間テーマに基づいた話し合いも行っている。

### (4) 地区別教育懇談会の実施

学校・家庭・地域社会が課題や問題点等の共有化を図りながら、学校の教育目標具現化のためそれぞれの役割を見つめなおす機会としている。

### (5) 学校HP（ホームページ）や学校便りによる情報発信

学校HPや学校便りで積極的に結果分析を公表し、課題の共有化を図り、家庭・地域の理解を得るようにしている。

### (6) 学級・学年経営案の評価・反省と配布

年度当初に学級・学年経営案を配布し、学期末に評価・反省を保護者に配布している。

### (7) 外部評価の実施

児童・保護者・学校評議員・自治会長・民生委員等を対象に外部評価を実施している。結果については、家庭・地域へ配布し、学校経営の充実に努めている。

## 7 成果と課題（次年度の取組を含む）

### (1) 成果

- 問題解決的な学習の定着
- 学力向上支援や教員養成GPプログラムなどの地域人材活用による、授業の充実
- 宮崎大学との共同研究による主題研等の実践活性化
- 到達目標設定による学年・学級の取組具体化
- 地域への積極的な情報発信と地域への協力で、開かれた学校作りの推進

### (2) 課題

- 個に応じた指導の在り方のさらなる工夫
- 家庭教育力の向上
- 教員養成GPプログラムでの連携とその充実